

文化遺産を活用した まちづくりシンポジウム 天明鑄物 未来をみつめて



令和元年度文化庁文化芸術振興費補助金
(地域文化財総合活用推進事業)

天明鑄物一千年の歴史

日本で現存する鑄物製造の中で最古…

平将門の乱の武具制作のため招集されたことが天明鑄物の起源か？

千利休も使用した名品「天明釜」…

織田信長が欲しがった「古天明平蜘蛛釜」…

大阪の陣で引き金となった「方広寺梵鐘」の制作に参加

天明鑄物である日光東照宮 徳川家康の墓所「宝塔」…



2019年9月29日 日

13:30 開場 / 14:00 開演

佐野市中央公民館 (佐野市金井上町2519)

TEL 0283-24-5771

入場無料/定員300名

基調講演 14:10~

森下 晶美氏 東洋大学国際観光学部 教授

テーマ 世界遺産なんかなくても

観光客はよべる

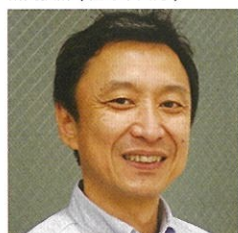


パネルディスカッション 15:30~

パネリスト

飯塚 義之氏

台湾 中央研究院地球科学研究所
研究技師 (佐野市出身)



樋口 陽介氏

福岡県芦屋町芦屋釜の里
鑄物師養成員



若林 秀真氏

天命鑄師
(佐野市在住)



コーディネーター

川副 令氏

佐野日本大学短期大学 教授



アクセス

【電車】

- ・ JR 両毛線「佐野駅」より徒歩 15 分
- ・ 東武佐野線「佐野市駅」より徒歩 10 分

【自動車】

- ・ 東北自動車道「佐野藤岡インター」より車で 15 分

天明鑄物について

■天明鑄物とは？

天明鑄物とは、下野国佐野天明(栃木県佐野市)の地で作られた作品、佐野の鑄物師によって作られた作品をいいます。さらに、佐野の鑄物業そのものを指す場合もあります。



■天明と天命

古くは天命、「明」を「命」と書かれていたようです。

古文書などから、江戸時代初期頃までは、「天命」であったと考えられます。天命は元々この地方の地名で、後に天明と変わりました。従って、伝統ある鑄物業の起源としては「天命」ですが、一般的に江戸時代以降の佐野の鑄物を表す場合は「天明」が適当と考えられます。

■天明鑄物の起源

鑄物の発祥が700年河内丹南(現大阪)で、佐野の鑄物のはじまりは、781年と言われ2番目に古い歴史となります。

河内丹南では今は鑄物を作っておらず、現在実際に作っている中で佐野は“最古”となります。

諸説ありますが、伝統ある鑄物業としての起源は平安時代、天慶2年(939年)平将門の乱のため、藤原秀郷が武具制作者として河内の国(現大阪)から5人の鑄物師を佐野に移り住ませたことに始まるとの説もあります。



■「西の芦屋に東の天明」

安土桃山時代に茶の湯の流行と相まって、天明の茶の湯釜の野趣に富んだ素朴な作風は、茶人に大いに好まれ、技術の優秀さとあわせて、九州筑前の芦屋(福岡県芦屋町)の釜とともに「西の芦屋に、東の天明」として天下にその名を知られました。

茶道の大成者で茶聖とあがめられる千利休が、天命釜で一會を催した旨の文献も残されています。

平成10年5月佐野市と芦屋町は親善都市の締結をし、今日も交流を行っています。



文化遺産を活用したまちづくりシンポジウム 申込書

申込方法

お申込みは「はがき」、「FAX」または「インターネット」でお受けさせていただきます。「はがき」「FAX」でお申込みの方は、①お名前 ②年齢 ③性別 ④住所 ⑤電話番号 ⑥同行者人数を明記の上、下記応募先まで。「インターネット」でお申込みの方は右記QRコードからお申してください。後日聴講券をお送りします。

※お申込みは先着順とさせていただきます。

※同行者がいる場合、聴講券は代表の方にお送りいたします。



申込先

〒320-8686 宇都宮市昭和 1-8-11
下野新聞社 業務推進部「まちづくりシンポジウム係」
TEL 028-625-1104 FAX 028-625-1132

申込締切

9月13日(金)

消印有効

《個人情報の取り扱いについて》

お申込み時にいただいた個人情報は、下野新聞社及び佐野市文化遺産を活用したまちづくり実行委員会が管理し、当シンポジウムのご連絡等の目的以外には使用いたしません。個人情報は法的機関より法律に基づく開示の請求があった場合を除き、第三者には開示いたしません。利用終了後は適切な廃棄処分を行います。

ふりがな				
氏名		年齢	性別	
住所	〒			
電話番号		同行者人数		